

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表：令和6年 月 日

事業所名 多機能型事業所ミルキーウェイ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	11		利用児が多い時には危なくないように、車椅子の配置や動線に配慮して、支援を行っている。視覚的に刺激にならないように配置を心がけている。広い空間を棚などで仕切りを設ける等工夫して空間を活用している。	利用児の人数によって、手狭に感じることがある為、利用児の人数に合わせたスペースの確保が今後は必要となる。
	2	職員の配置数は適切である	7	1	送迎で職員が減る際には、現場に残る職員に声掛けを行い、できる限り同じ空間で過ごすまたは目配りできるよう支援している。急な職員の休みで人数が不足し、慌ただしくなると予想されるときには時系列で職員の動きを視覚化し、手薄になる時間の共有を図った。	多動や体格の大きい利用児に体格の小さな職員では対応が難しいことがあり、送迎で乗車する際には2人で対応を求められ、現場の人員が手薄になることがある為、声掛けなどお互いの連携が必要となる。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	10	1	利用児に応じて、過ごす場所を変える等工夫している。利用児にも部屋がわかるように名前をつけるなど改善を行った。特性に応じて視覚的に表示するなど対応している。	構造上対応が難しい箇所があり、女子トイレの位置が分かりにくいなど問題がある為、大きな目印をつけるなどの対応を行っている。
業務 改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	9		即者等など支援を行う職員で話し合いを行い目標設定を行っている。また目標に沿って実行し、問題があった際には速やかに振り返り改善を図っている。カルテのほかに各利用児のファイルを作成し、最新状況を記載し職員間で支援方法の統一が図れるよう環境づくりをした。	勤務時間によって話し合いに参加できないこともある為、情報共有ができるように話し合い内容の記録を残すなどの対応していく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	12		年に1度、保護者アンケートを実施し、業務改善につなげている。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	9		自己評価結果を当社ホームページにて公開を行っている。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	8	1		外部評価は実施されていない。必要に応じ、実施を検討していく。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	11		色々な研修の案内があり、業務時間内で参加したりオンラインで研修に参加したり出来ている。	
適切 な 支 援	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成	12		保護者との会話やアセスメントの中から出たニーズを分析し、計画書の内容に盛り込んで作成を行っている。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	4		標準化されたアセスメントシートを使用しているが、アセスメントを行う個人による差が感じられる為、職員向けに勉強会の実施を検討していく。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	10	2	保育士を中心に、職員それぞれが考えた活動を集約し、療育計画を立てている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	10		色々な業種の職員が意見を出し合い、活動内容が重複しないようにしている。	意見を集約して計画を立てている為、活動内容に偏りが出来ることがある。制作や運動など、色々な項目で活動があげられるように対応していく。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	9		放課後のご利用時にできないことを長期休暇のご利用時に行うなど、ご利用時間に応じて行う課題の設定をしている。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	12		利用児それぞれの特性に合わせて、集団活動に参加できるよう視覚的な支援を行うなどの内容を計画に取り入れている。	

の提供	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	11	2	朝礼や午後のミーティングなどで情報共有を行い、支援の動きや活動の確認を行っている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	3	2	勤務時間の違いや当日の支援後の会議が難しい為、翌日に会議を行ったりLINEや共有ノートを活用したりして情報共有を	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	11		HUGを用いて支援記録を行い、各部署での会議で改善案の共有や相談をしている。	記録を残しているが、検証まで行っていないものや不十分なものもある為、実施方法の検討をしていく。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	12		半年に1度モニタリングを行い、計画の見直しを行っている。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	5			個人としてまだ知識不足という意見もあり、事業所内で勉強会の実施を検討していく。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	11		支援の担当者が参加できない場合には、事前に情報共有を行い、会議に参加しても滞りがないように対応をしている。	
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	11		時間割や年間行事予定表を確認し、送迎時に学校の先生との変更ないかなど情報共有を行っている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	12		看護師を中心に毎年主治医より意見書をも頂き、看護手順書を作成している。新しいケアがあるときにはその都度新たに意見書を頂いている。また医療的ケアに疑問がある際には、保護者に了承を得て確認を行っている。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	10		保育園在園時には送迎時や支援会議に参加した際に上表共有を行っている。	
	24	業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	7	1	移行支援で支援会議に参加し、情報共有を行っている。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	9		支援会議を通して連携を図っている。リハビリの見学をし、支援につなげている。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1	5		繋がりはあるが、新型コロナ禍のため交流や活動をする機会は設けられていない為、今後は行えるよう検討していく。
	27	（地域自立支援）協議会等積極的に参加している	4	1	こども部会や医ケア部会など定期的に開催されている協議会に参加している。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	13		送迎時にご利用の様子や自宅の様子など情報共有を行い、保護者とのコミュニケーションを図り、問題に取り組んでい	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	3	4		職員のペアレントトレーニングの理解の不十分さもある為、研修の実施を検討していく。
保護者への説明	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	9		利用契約時に契約書に沿って詳しく説明している。またご利用時に支給量を超えそうな場合はご家族へお伝えを行って	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	12		保護者から相談があった場合には、その場で返答せずに、事業所で話し合いを行ってから回答をするようにしている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	2	4	保護者会などの開催が難しい為。納涼祭などの行事で保護者同士の関わりが持てるように対応を行っている。	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	12		苦情や相談があった際には、すぐに返事をせずに上司・管理者に報告し、話し合い・共有を行い迅速に対応している。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	10		HUGにて保護者との情報共有をしている。	全体的な周知が出来ていないこともある為、公式LINEを活用し、全体への発信を行っていきたい。

任 等	35	個人情報に十分注意している	13		利用児の情報に記載されている物は書庫で管理し、破棄する場合には機密書類として情報漏洩に配慮している。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	12		意思疎通に関しては、伝わりやすいよう方法の模索をし、声掛けを行っている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	5		納涼祭を開催したが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、地域を招待することはできていない。感染症対策に努め、機会を設けていきたい。
非 常 時 等 の 対 応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	13		委員会の設置を行い、活動としてそれぞれマニュアルの策定を行っている。	感染委員からの指導を行ったりしているが、実際に訓練が出来ていない物もある為、計画を立てて実施していく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	11		委員会でマニュアル、避難マップの作成を行っている。また定期的に避難訓練を行っている。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	13		虐待防止・身体拘束委員会を中心に、年2回研修を行っている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に	13		個別支援計画書に記載をし、保護者より同意を経ている。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	12		主治医からの指示書に記載されている内容を各自確認し、支援に臨んでいる。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	12		ヒヤリハット作成後、朝礼やスマホフリBANDを用いて、情報共有を行っている。	